



文化十一年(八二四年)
イギリス船が
長崎に入港

その後も
たびたび
外国船が
日本の近海を
うかがいまわす

海の守りが
十分にできて
いない
幕府や
大名に
どこは
大きな不安
です

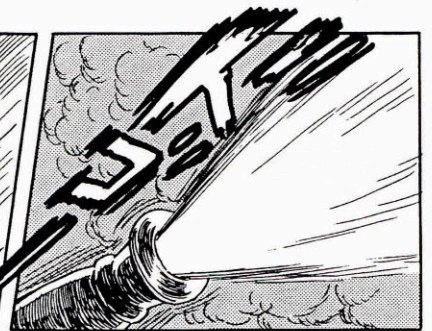
(※)西北の風防して幕打よ吾

江戸から
萩城に帰った
斉熙は
海防の
研究を清風に
命じました

(清風三十二歳)
森重曾門
や飯田
七郎右衛門の
意見をとり入れて
新しい備えを
つくろう

文化十四年(八七七年)
二月二十六日
第一回演習が
坂ヶ浜で
行われました

撃つてえ



大砲で沖合に
浮かぶ船を撃ち

上陸してくる敵を
鉄砲でたおす

大砲七門
小銃數十挺
三百人の
神器陣

そして少年時代
八谷先生と登った
嶽の山から
遠くを見ながら
いろいろ教わった
思い出がもた
なっているのは
ないでしょうか

清風のこの信念は
幼いころ
三隅山荘から
朝に夕にながめた
仙崎湾や
日本海

また清風は
北浦海岸の
守りとして
須佐高山
瀬戸崎(仙崎)
川尻
見島
角島

へ以下次号